

【消化器内科】

NSAIDs・LDA潰瘍が
増えています

国吉病院

院長 国吉 宣俊 さん

高齢化社会を迎え、腰痛、関節痛などの整形外科的疾患や、狭心症、心筋梗塞、脳梗塞などの心血管系の疾患が増加しています。そのため鎮痛剤として非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs）や、抗血小板薬として低用量アスピリン（LDA）を飲んでいる患者さんが増えています。NSAIDsは効きますが、胃腸障害を起こしやすい薬です。日本ではヘリコバクターピ

ロリ菌感染による胃潰瘍が非常に多かったです。ピロリ除菌が保険適用となつてから胃潰瘍は急激に減少し、20年間で潰瘍患者数は3分の1以下に減少しています。しかし死亡率は約2倍に上昇していると報告があり、高齢化と薬剤の関与が推測されています。つまりNSAIDs・LDAによる潰瘍は腹痛や不快感などの症状は少なく、吐血や下血、貧血などの出血関



連の症状で発見されることが多いとされています。高齢の方は複数の病気を治療しておられる方も多く、薬の飲み合わせによっては副作用が強くなる可能性があります。医療機関を受診する際は、必ずお薬手帳を持参することをお勧めいたします。

医療法人三和会 国吉病院

高知市上町1-3-4

☎088-875-0231

【診療時間】

午前9:00～正午

午後2:00～午後5:00

※土曜日は午前診療のみ

【休診日】土曜日午後・日曜日・祝日

※急患は時間外でも診療いたします

【診療科目】

消化器内科・循環器内科・

消化器外科・緩和ケア内科・

整形外科・内科（ペインクリニック）他